

# 冬控え住民の健康不安

トルコ地震でAMDA

## 緊急救援活動を報告

これから冬を迎える被災地住民の健康などに不安を訴えた。

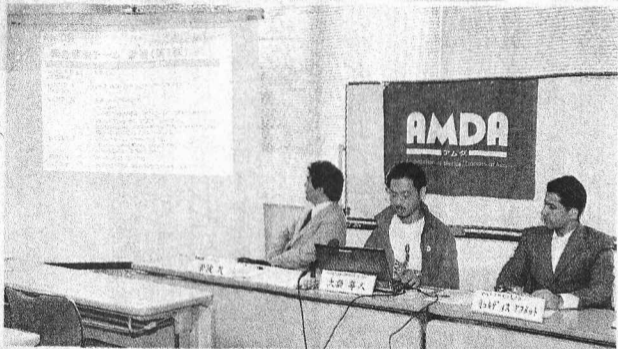
派遣されたのは、医師の大類隼人さん(30) Ⅱ神戸市Ⅱと湊崎祐一さん(67) Ⅱ福岡市、トルコ人調整員イユルデイス・アフメットさん(23)の3人。チームは発生から2日後の25日に現地入りした。被害の大きかった都市エルジシュに約1週間滞在し、仮設病院となった体育館で外傷を負った患者の治療に当たった。

報告会には大類さんとアフメットさん、菅波茂代表が出席した。大類さんは建物が倒壊し、がれきが散乱する現地の様子などを映像を使って紹介。「人々は家を失い、テント生活が続いている」とし、「夜は寒さが厳しく、防寒具も足りない」と、被災者の今後の生活や健康状態を心配していた。

AMDAは今後、現地の要望などを情報収集し、復興に向けた支援を検討する。

(大江恵里奈)

被災地での活動を報告する大類医師(中央)ら



トルコ東部を襲った大規模地震で国際医療ボランティアAMDA(本部・岡山市北区伊福町)から被災地に派遣された医師と調整員計3人が緊急救援活動を終えて帰国。活動報告会が1日、国際交流センター(同奉還町)で開かれ、医師らは、